

令和6年度第2回豊田市環境審議会 会議録

【日時】 令和6年8月2日（金）10：00～12：00

【場所】 豊田市役所 南庁舎 5階 南52会議室

【出席者】

（委員）

千頭 聡	（日本福祉大学 国際学部 特任教授）	《会長》
渡部 教行	（豊田市自然愛護協会 会長）	《副会長》
赤坂 洋子	（NPO法人 とよたエコ人プロジェクト）	
宇井 妥江	（市民公募）	
梅村 良	（とよたエコライフ倶楽部 運営委員）	
大坪 瑞樹	（豊田市自然観察の森 所長）	
川上 正弘	（豊田市区長会 理事）	
近藤 元博	（愛知工業大学 総合技術研究所 教授）	
篠田 陽作	（ネイチャークラブ東海 代表）	
杉山 範子	（東海学園大学 教育学部 教授、 名古屋大学大学院 環境学研究科 特任教授）	
竹内 徹	（市民公募）	
谷口 功	（椙山女学園大学 情報社会学部 教授）	
長谷川 陽一	（あいち豊田農業協同組合 常務理事）	
増田 理子	（名古屋工業大学社会工学専攻 教授）	
森下 幸信	（中部電力パワーグリッド株式会社豊田支社 支社長）	

（計 15人）

（事務局）中川環境部長、近藤環境部副部長、松井環境部専門監、塩谷環境政策課長、浅井環境保全課長、青木廃棄物対策課長、金原循環型社会推進課長、長嶋清掃業務課長、宝木清掃施設課長（ほか）

【欠席者】

（委員）

前田 洋枝 （南山大学 総合政策学部 教授）

（計 1人）

【傍聴人】 1名

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題
 - (1) 計画改定のスケジュールと本日の議題（報告）
 - (2) 各専門部会における施策進捗評価に対する審議結果（報告）
 - (3) 「安全・安心社会」及び「市民の環境行動力の向上と共働の分野」の取組評価（協議）
 - (4) 各部会の意見や社会情勢変化を踏まえ、今後強化すべき取組案（協議）
 - (5) 市民・事業者の意見の把握について（協議）
- 4 その他

【議 事】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題

(1)計画改定のスケジュールと本日の議題【報告】

会長	・ 議題（1）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料1に沿って計画改定のスケジュールを説明。） （本日議論いただく内容について説明。）
会長	・ 本日の環境審議会は重要な位置づけになるのではないか。
会長	・ 議題（1）について、意見等をお願いしたい。
	（意見なし）

(2)各専門部会における施策進捗評価に対する審議結果【報告】

会長	・ 脱炭素化部会の審議内容について、部会長から説明をお願いしたい。
委員	（資料2-1に沿って脱炭素部会での議論の概要を説明。）
会長	・ 自然共生部会の審議内容について、部会長から説明をお願いしたい。
委員	（資料2-2に沿って自然共生部会での議論の概要を説明。）
会長	・ 循環型部会の審議内容について、部会長から説明をお願いしたい。
委員	（資料2-3に沿って循環型部会での議論の概要を説明。）
会長	・ 議題（2）について、意見等をお願いしたい。
	（意見なし）

(3)「安全・安心社会」及び「市民の環境行動力の向上と共働の分野」の取組評価【協議】

会長	・ 議題（3）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料3-1、資料3-2に沿って「安全・安心社会」及び「市民の環境行動の向上と共働の分野」の取組評価について説明。）

会長	・ 議題（３）について、意見等をお願いしたい。
委員	・ 資料 3-1 の p4 に、路上喫煙禁止区域内の巡回パトロールや清掃活動を実施したが、たばこのポイ捨てごみ数は減っていないとある。路上喫煙禁止区域外でたばこのポイ捨てごみ数が減らないのか。自身の通勤時に、路上喫煙者の匂いが気になることがある。喫煙所が整備されていれば、路上喫煙者が減るのではないか。
事務局	・ ラグビーワールドカップの開催に合わせて豊田市全域を「豊田市路上喫煙の防止等に関する条例」の対象区域とした。当該条例において路上喫煙禁止区域以外も喫煙をしないように努めなければならないとしている。 ・ 分煙施設（喫煙所）は市内に６か所整備している。 ・ どこの市町村も共通して苦慮しているが、副流煙対策に関する施策までは取り組むことは難しく、ポイ捨て防止の観点からしか対策ができてない。ボランティアによる清掃活動で回収したたばこのポイ捨てごみから、毎月数量を把握している。たばこのポイ捨てごみの多さは、路上喫煙禁止区域内外より、飲食店の店前で多い傾向にある。 ・ イベント開催時などは、禁止区域における路上喫煙者に対して指導員が喫煙所への案内を行っている。
委員	・ 路上喫煙者への罰則はあるのか。
事務局	・ 罰則を設ける案もあったが、罰則規定は設けていない。指導員による喫煙所への案内にとどめている。
委員	・ 居酒屋周辺でのたばこのポイ捨てへの対策ができればよい。
委員	・ 山之手小学校の北側周辺の歩道に捨てられたたばこのポイ捨てごみは近年減ってきた印象がある。一方で空き缶や食料品の袋など、コンビニエンスストアで買ったであろうもののポイ捨てごみが多くなっており、自宅前にも捨てられて困っている。たばこのポイ捨てごみに限らず、ポイ捨てごみ全般を規制するようにしてほしい。
事務局	・ ポイ捨てごみへの対策は市としても苦慮しているところで、個人のマナー、モラルに頼らざるを得ない。大きな不法投棄物であればボランティアが集めたものを市で回収している。また不法投棄パトロール隊や清掃ボランティアなどの活動を支援している。
委員	・ シンガポールは世界で一番清潔なまちと言われていたように、豊田市でも啓蒙活動などを通してごみのないまちになるように取り組んでほしい。
委員	・ 資料 3-1 の p7「子どもたち（未来の大人）に関わりながら…」、資料 3-2 の p2「様々な世代へ適切な環境情報・学習の場が提供

	…」とあるが成果目標では小学生のみを評価する指標となっている。愛知県の高校生を対象としたワークショップに参加した際、高校生から「私達高校生は環境について学んでおり、大人が学ぶ場をもっと設けてほしい。」「高校生には選挙権がないため、市長へ意見を言う場が欲しい。」という意見があった。未来を担う世代へ情報提供は必要だが、今まさに大人が気候変動などに対応し次の世代に引き継ぐ必要がある。大人にも環境問題学習の場が提供できているか、評価できるようにしてほしい。
委員	小学生、幼稚園からは「自分のごみをちゃんと捨てているが、大人がポイ捨てしている。」と言われることが多い。落ちているごみに対してボランティアや市役所が対応するのではなく、ごみ捨てをしない大人になるような教育体制が必要と感じる。豊田市社会福祉協議会ボランティアセンターと一緒にごみ拾いをしているが、ごみの量は一向に減らない。ごみのポイ捨てに関しては、環境問題というよりも教育問題として捉えるべきではないか。環境問題は起きてしまった問題に対して後始末をするのではなく、事前に対策することで問題が起きないようにすることが重要である。
委員	資料 3-2、p2「学習機会・知識の提供」に関連して、これまでは環境学習施設エコットへの送迎バスが提供されていたが、今年度は打ち切られたと聞いている。環境学習施設エコットで学ぶための機会を増やすためにも、できれば今後再稼働してほしい。または代替の案を提供してほしい。
事務局	これまでは民間企業のバスを借りていたが、今年度は市所有のバスの利用に切り替えようと考えている。これまでと同様に環境学習の機会を提供できるように手段を検討している。
会長	資料 3-1 の p7「周辺環境への満足度（全体）」が 4 年間で 1.5 倍も上昇しているが、個人の体感としてこれほど向上したのかと驚いた。例を示すなど聞き方を工夫することで回答結果が向上することがあり、アンケート設計が原因かもしれないが、実際に周辺環境への満足度が上がっているか気になった。
委員	資料 3-1 の p4「良好な生活環境の形成」に関して、市街地ではあまり関係ないかもしれないが、個人的には空き家、耕作放棄地への対策が課題と感じる。沿線道路の交差点付近に放棄地があると、ポイ捨てされたり、外来種が住み着いたりする。また民家の隣に放棄地がある場合は隣家にも悪影響を及ぼす。ごみ問題だけでなく、どこまでを生活環境として捉えるか難しいと思うが対策は必要と感じる。

	- 資料 3-1 の p5「気候変動や自然災害による環境影響の低減・回避」に関連して、猛暑はすでに多くの市民が実感していると思うが、内水氾濫などまだ豊田市では発生していない災害リスクがある。一度発生し市民生活に影響が出るとアンケート結果も変わってくると想定される。そのため、「気候変動や自然災害による環境影響」に影響が予想されるため、対象範囲は明確に整理しておく必要があるのではないか。 - 資料 3-2 の p2「学習機会・知識の提供」に関連して、環境学習や環境問題に対して興味を持っていない人にまずは、興味を持ってもらう観点も必要である。小中高生を対象に開催した学習講座において、これまでは気候変動をテーマにしていたが、今年度は燃料電池を切り口とした気候変動をテーマにしたところ応募数が増えた。脱炭素や生物多様性の問題が自分事になっていない人が多い印象がある。まずは興味を持ってもらうための施策も必要ではないか。
会長	環境学習は様々な世代を対象とすること、大人への働きかけを反映した指標も必要ではないかという意見に対して、事務局から回答をお願いしたい。
事務局	- 気候変動危機が目の前の問題となっており、子どもだけでなく大人も巻き込んでいかなければならないと実感している。 - 無関心層への取組としてイベントに有名人を呼んで講演してもらうなど、興味関心をもってもらう工夫を行っている。また名古屋グランパスと連携したマイボトル持参運動も行っており、様々な切り口から事業に取り組んでいる。
委員	- 今後はごみ箱を設置する、設置位置の検討には ICT 技術を活用する、ごみ回収の時間を工夫する、ポイ捨てをしないような行動変容を促す技術を導入するといったことも検討される。ソフトで対応できる課題、技術が必要な課題を整理すべきではないか。 - 路上喫煙者に対してあえて豊田市では過料などの罰則は設けなかったが、その上でどのように行動変容を促すべきかについては、今後丁寧な議論が必要ではないか。 - SDGs 推進について、「とよた SDG s パートナーの連携事業数」の増加や取組が良好であることは理解している。しかし目標年度の振り返り時期にきていることから次期計画では具体的にどのようなターゲットを目指し達成するか示してほしい。
会長	2030 年まで秒読みであり、やるべきことをやっていればよい時代は過ぎた。 - ご意見ないようであれば、議題（4）に移る。

(4)各部会の意見や社会情勢変化を踏まえ、今後強化すべき取組案【協議】

会長	議題（４）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料４に沿って次期計画で強化すべき取組案について説明。） ・今回は、部会にて進捗評価した３分野の案を提示した。本審議会にて進捗評価した２分野については今後提示したいと考えている。
会長	・強化すべき取組案の計画への反映はどのように行うのか。
事務局	・今後計画に重点的に盛り込んでいく方向性を示している。
委員	・特に「脱炭素社会」の分野で、記載している動向、情勢変化は現状見えているものにとどまっている。１０年経ったらどう変化するか、バックキャストの視点からも考えなければならないのではないか。記載の通りエネルギー基本計画が改定作業中であり２０３０年、２０３５年も見据えなければ、計画の進捗が良好だとしても潮流の後追いになってしまう。情勢変化について先の時間軸で示すべきではないか。
会長	・各分野とも、環境問題を担う市民の生活の姿、市民社会の変化が見えてこないため、情勢変化に加えてほしい。考慮すべき社会動向は、人口動向以外にもあるはずである。

(5)市民・事業者の意見の把握について【協議】

会長	・議題（５）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料５-１に沿ってアンケート調査の企画概要について説明。） （資料５-２に沿ってワークショップの企画概要について説明。） ・アンケート調査票の設問案についての説明は割愛するが、事前にいただいたご意見を反映している。
会長	・資料５-２ 市民ワークショップのうち、外国人向けワークショップは私が提案したため補足説明する。豊田市は外国人が多い特徴がある。外国人はマナーが悪いといった文脈で語られることが多いが、貴重な地域の担い手でもあり、一緒に豊田市の環境について考えるきっかけになればよいという思いから提案した。
委員	・外国人に対する様々な支援団体があると思う。支援団体も活用して環境問題についても考える場を提供できればよい。また外国人を受け入れている企業と連携した取組を実施できればよい。
会長	・７～８年前に外国人を対象としたワークショップを開催したことがある。「ごみの分別方法の資料などは多量に提供されるが、実際に出す場所が分からない」といった意見が寄せられ、新たな気づきがあった。

	・ 議題（３）で議論に上がっていたように、小学生の視点からの意見も多く聞ければよい。小学生アンケートについて、自身としてできることのほか、大人に対して気づいたこと、思うこと等についての設問も可能であれば追加できるとよい。
委員	・ 以前提出したアンケート調査票への修正事項のうち、一部修正されていない部分があった。 ・ 問 13 の設問数が非常に多い。全てに対して重要度と満足度を聞くのではなく、重要と思うものを５つ選び、それについて満足度を聞く方法にしてはどうか。市民の負担軽減、回答率向上のためにも設問数を減らしてはどうか。
会長	・ 問 13 について、事務局は重要度と満足度の二軸で評価したいのだろう。設問数を減らせるのであれば減らしてほしい。
委員	・ 満足度は回答しづらく真ん中の「どちらでもない」を選ぶことが多かった。市民も同じような回答になると予想される。
委員	・ 小中高生向けアンケートの問 5 自由記述について、「意見があれば」記載してもらうのではなく、例を示すといった工夫によりなるべく回答してもらうように誘導してはどうか。より多くの子どもの思いを汲み上げられたらよい。
会長	・ 期間が限られているため、アンケート調査票の修正は会長に一任してほしい。
委員	・ 了承した。
会長	・ ワークショップは、ワークショップ結果を計画にどう反映させるのかをはっきりさせてから行う必要がある。ワークショップの結果全てを計画に反映させられるわけではないが、意味のあるものとするために反映方針は整理してほしい。
会長	・ 議題（５）以外の議題でも構わないので、ご意見をお願いしたい。
委員	・ ハクビシンが周辺に出現するようになった。市内道路を横切っているのを見たほか、自宅の庭のビワを食べられていた。以前から山間部ではクマやイノシシの問題があるが、都市部、住宅街でも特定外来生物が出るようになったと実感しており、市としても対応してほしい。
委員	・ 外来生物への関心が高まれば生物多様性への取組につながる。また駆除すればいなくなることから、駆除の方針を検討してほしい。

(6)その他

事務局	・ 資料４へのご意見があれば来週までに提出してほしい。
-----	---

以上